

企業・組織・個人事業主等への量的・質的調査による

新型コロナウイルス感染症COVID-19に係る災害対策・事業継続のあり方の提言

木村玲欧（環境人間学部・大学院環境学研究科 教授）

■ 研究概要（アンケート調査で全体像を解明し、インタビュー調査で具体的対策を明らかにする）

本研究は、1) 兵庫県企画県民部ビジョン局ビジョン課と協力し、兵庫県の商工会議所連合会、商工会連合会、中小企業団体中央会、新産業創造研究機構等へwebでのアンケート調査等を実施し、わが国の緊急事態宣言発出・延長・解除後の各組織・個人事業主の対応状況の全体像を描いた。あわせて、2) インタビュー調査によって新型コロナウイルス感染症COVID-19での対応の経験・工夫・知恵を明らかにすることで、アフターコロナを見据えた災害対策・事業継続に活かすことを目的に実施した。

■ アンケート調査からわかった全体像

2020年5月（第1波が収まる頃、有効回答数n=79）および、9月（第2波が収まる頃、有効回答数n=203）の2回にわたってアンケート調査を実施した。なお、アンケート回答者には、回答締め切り後、2週間以内に、調査結果の要約編をメール添付で送信することで、調査結果をもとにした回答者へのフィードバックを行っている。

特徴的な調査結果を見ると、基本的な感染対策について（図1）、マスク着用や手指消毒に比べ、体温測定やトイレの感染対策は十分できておらず、特に、トイレの感染対策は時間が経っても対策が進みにくいことがわかった。

コロナ発生前のBCP策定状況について（図2）、感染症を想定したBCP・対策マニュアルを策定していた企業は10%程度しかなかった。感染症を想定した訓練は、一度だけ行ったことがあるとの回答を含めても6.3%であった。

職場の課題について（図3）、「先行きの不透明感がある」が約8割であった。特に「イベントの中止・延期」「研修・教育の遅滞」「健康管理」などの割合が高かった。一方、「在宅の閉塞感」は「あてはまらない」が55.7%であり、テレワーク等の定着が進んでいる状況も考えられている。

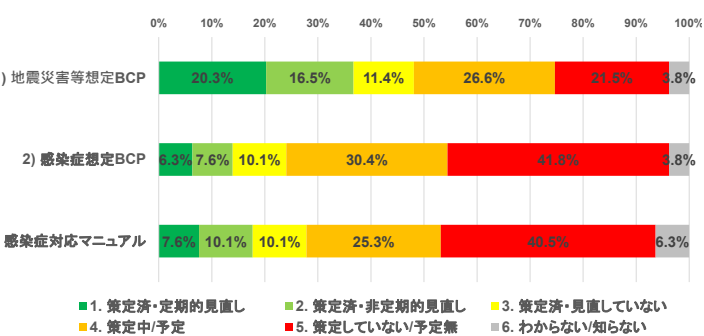
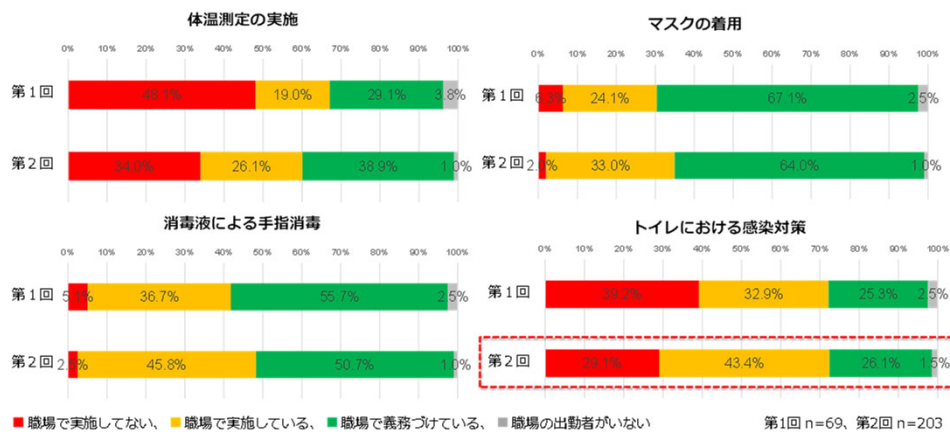


図2 コロナ発生前のBCP策定状況

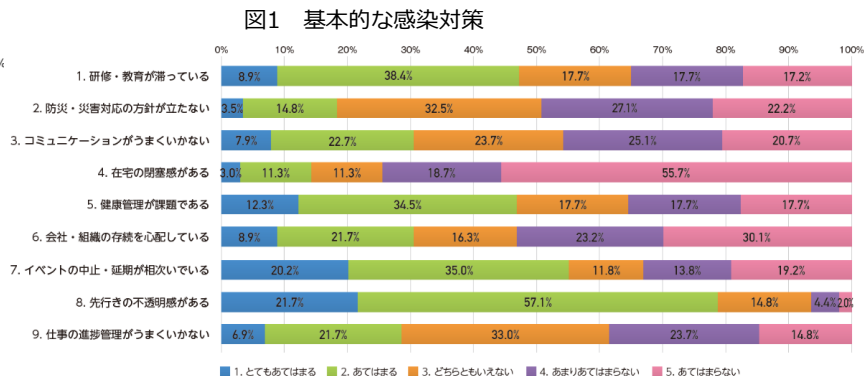


図3 職場における課題（第2回調査）

■ インタビュー調査からわかった具体的対策

「イベントの中止・延期」について、インタビュー調査より、兵庫県立芸術文化センター（西宮市）の新型コロナ対策が、専門家の意見を反映し科学的課題解決をした好例として詳細を取りあげた。

コロナ対策を講じながら有観客で歌のコンサートのあり方を探る実験的な取り組みを実現するために、医学的な専門家、建築空調設計の専門家、そして声楽・合唱の専門家と連携し、情報共有しながら準備を進めた。また、新聞・TV・SNSなどのメディアも含めて積極的に社会と情報共有しながら前に進んでいき、危険があればすぐにやめる覚悟で準備を進めた。

大ホールについては、藤田医科大学医学部教授の吉田友昭先生の立会いで、スモークマシンを使った気流の実験を実施し（図4）、客席側から舞台側に空気の流れを明らかに、エアカーテンによってオーケストラ方向に流れる飛沫を上空に飛ばす対策などを開発・実施した。

インタビュー成果は、神戸防災のつどい2021（神戸市）と共催した一般公開シンポジウム「コロナ対策と事業継続～withコロナ時代を生き抜く」で発信し、シンポジウム内容をメディアで記事配信した（図5）。



図4 スモークマシンを使った気流の実験



図5 記事QRコード